

Intensive

TEXT 1

年内完結・速修コース
基本テキスト



所得税法

INCOME TAX

第1回講義
体験用テキスト

TAC税理士講座



TAC

所得税法年内完結・速修コース基本テキストNo. 1 コントロールタワー

回数 教材	テーマ	基本 テキスト	トレ ーニング	シス テム カード	理 論 マ ス ター	個別 計算 問題 集 「TAC出版」
第 1 回	所得税の学習にあたって 所得税の計算体系	P. 1 ↳ P. 28	P. 1 ↳ P. 5	/	/	/
第 2 回	各種所得の金額の計算	P. 29 ↳ P. 60	P. 6 ↳ P. 12	1-1 ↳ 7-10	2-1 ↳ 2-5	/
第 3 回	各種所得の金額の計算	P. 61 ↳ P. 88	P. 13 ↳ P. 20	8-1 ↳ 10-18	2-1 ↳ 2-6	/
第 4 回	青色申告等 課税標準の計算	P. 89 ↳ P. 118	P. 21 ↳ P. 24	11-1 ↳ 11-9	5-1 5-2 9-8 9-10	第13章
第 5 回	課税標準の計算 課税所得金額の計算	P. 119 ↳ P. 150	P. 25 ↳ P. 34	11-11 ↳ 11-14 12-1 ↳ 12-9	5-3 5-4 6-1 ↳ 6-3	第13章 第14章
第 6 回	課税所得金額の計算	P. 151 ↳ P. 186	P. 34 ↳ P. 42	12-11 ↳ 12-20 12-23 ↳ 12-28	6-1 6-4 ↳ 6-6	第14章
第 7 回	課税所得金額の計算 納付税額の計算 確定申告等 所得計算の通則	P. 187 ↳ P. 218	P. 43 ↳ P. 48	12-21 12-22 13-1 ↳ 13-23	3-1 6-1 7-3	第14章 第15章 第16章
第 8 回	NO. 1 総まとめ講義	/	/	/	/	/
第 9 回	実力テスト（通信添削問題）	/	/	/	/	/

テキスト

< 今回の学習内容 >

第 1 回講義 使用ページ
p. 3 ~ 28

テーマ1 所得税の学習にあたって

理論：重要度 一

計算：重要度 一

所得税は、私たち個人が一暦年間に稼いだ所得に対して課される国税で、納税者自身がその所得とその所得税額を計算して申告し納税する、申告納税方式の税金である。

そこで、所得税法の学習にあたって、学習範囲、納税義務者、基本原則などについて学習する。

◆ 本試験の出題形式

税理士試験の所得税法は、【第1問】理論問題（50点）と【第2問】計算問題（50点）が出題される。

第1問の理論問題は、最近では応用問題が2題出題される。

第2問の計算問題は、以前は総合計算問題が1題出題されていたが、最近では個別問題等も絡めて出題される。

【第1問】 理論問題（50点）

応用問題 2 題

【第2問】 計算問題（50点）

総合計算問題 + 個別問題



このテーマの学習内容

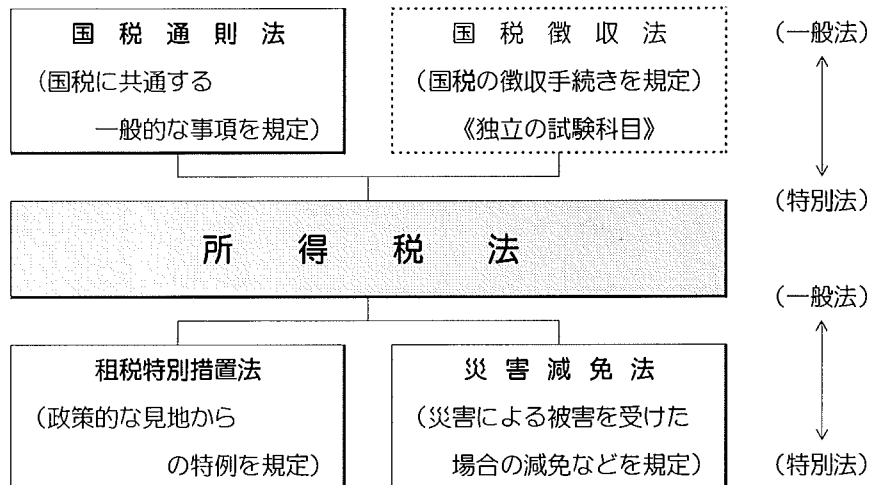
テーマ番号	学 習 内 容	学習回数
1-1	学習範囲及び他の法律との関係	No.1 第1回
1-2	所得税の納税義務者	No.1 第1回

1-1 学習範囲及び他の法律との関係

1 所得税法の学習範囲

次のとおり所得税法のみならず、国税通則法、国税徴収法、租税特別措置法及び災害減免法等に定める関係事項も含まれる。

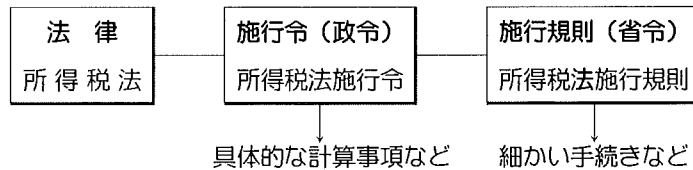
但し、税理士試験において、国税徴収法は独立の試験科目とされているため、試験範囲からは除かれる。



2 法律構成

所得税法には**施行令（政令）**と**施行規則（省令）**が付属しており、一体となつて一つの体系をなしている。

これは、所得税に関する事項のすべてを所得税法で規定することは困難であるため、重要事項は所得税法で規定し、具体的な計算方法などや細かい手続きの様式などは施行令・施行規則で定めている。

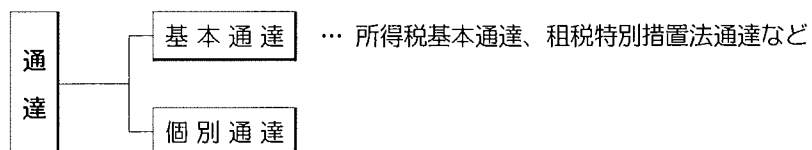


3 通達

通達は、法令の具体的な**解釈指針**である。

これは、法令の解釈による取扱いを統一すべく定められたものであるが、法律ではないため、これに直接拘束されるわけではない。

なお、**通達での特例**は計算問題の答案作成上は重要であるが、理論問題の答案作成上は考慮する必要はない。



1 - 2 所得税の納税義務者

1 納税義務者の種類

所得税は所得のある個人に対して課税することを原則とするが、所得税では、個人を次のように区別している。

居 住 者	国 内 に 住 所 を 有し、又は、現在 まで引続いて1年 以上居所を有する 個人	非永住者以外	非永住者以外の居住者
		非 永 住 者	日本国籍を有しておらず、かつ、 過去10年間のうち5年以下の期間 国内に住所又は居所を有する個人
非居住者	居住者以外の個人		
(注1) 住所とは、各人の生活の本拠をいう。 (注2) 居所とは、住所以外の場所で、相当期間継続して居住する場所をいう。			

※ 私たちは日本に住所があることから居住者に該当するが、外国人でも日本に1年以上住んでいれば、私たちと同様に居住者に該当する。

2 課税所得の範囲

1. 非永住者以外の居住者（全ての所得）

国内源泉所得	国外源泉所得
--------	--------

2. 非永住者

国内源泉所得	国内で支払 国外から送金	
--------	-----------------	--

3. 非居住者

国内源泉所得	
--------	--

※ 国内源泉所得とは、国内で稼いだ所得をいう。

※ 私たちは非永住者以外の居住者に該当し、国内外を問わず全ての所得に対して所得税が課税される。



参 考 所得税の基本原則

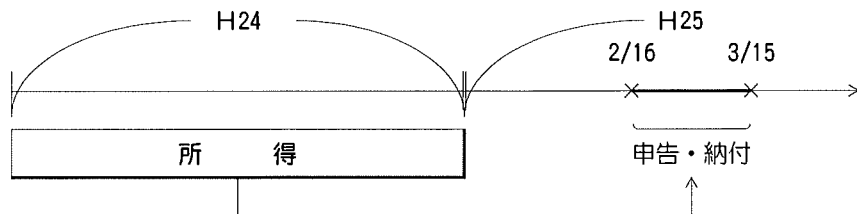
1 個人単位課税の原則（課税単位）

所得税は、所得を稼得した**個人1人1人**に課税する、個人単位課税を原則とする。

2 暦年単位課税の原則（課税期間）

所得税は、**一暦年間**（その年の1月1日から12月31日までの期間）を課税期間とする、暦年単位課税を原則とする。

※ 法人のような事業年度（会計年度）を定めることはできない。



3 応能負担の原則

所得税は、担税力（税金を負担する能力）に応じて課税することを原則とする。

※ 代表的なもの

(1) 質的担税力の考慮

10種類の各種所得に分類して、その性質に見合った所得計算をする。

(2) 量的担税力の考慮

各種所得は、原則として総合し、超過累進税率により税額を計算する。

(3) 生活面での個人的事情の考慮

けがや病気などによる医療費の支出、家族を養っているなどといった生活面での事情も考慮しながら計算する。

テーマ2 所得税の計算体系

理論：重要度 一

計算：重要度 ★★★

所得税は、個人の所得に対する租税であるが、一定の趣旨から非課税とされる所得があるため、それらを除外した課税対象所得を基に所得税の額を計算する。

なお、所得税の額は、質的担税力や量的担税力、さらには個人的事情を考慮するため、4つの段階を経て計算することとしている。

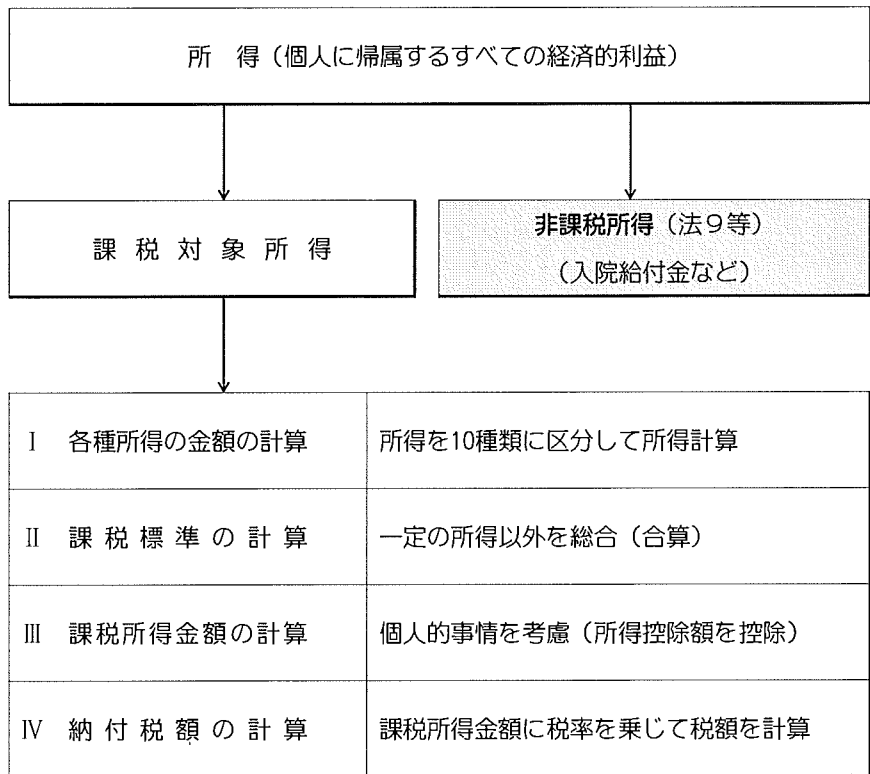


このテーマの学習内容

テーマ番号	学 習 内 容	学習回数
2-1	所得税の計算体系	No.1 第1回
2-2	第1段階 各種所得の金額	No.1 第1回
2-3	第2段階 課税標準	No.1 第1回
2-4	第3段階 課税所得金額	No.1 第1回
2-5	第4段階 納付税額	No.1 第1回

2-1 所得税の計算体系

■ 所得税の計算体系（法21）



※ 非課税とされる所得があるため、それらを除外したものが課税対象となる。

<メ モ>

2-2 第1段階 各種所得の金額

1 10種類の各種所得

所得を次の10種類の各種所得に区分し、所得の金額を計算する。

1. 利子所得

銀行預金の利子、公社債の利子など

2. 配当所得

配当金など

3. 不動産所得

地代、家賃など（不動産の貸付けによる所得）

4. 事業所得

小売業の所得など

5. 給与所得

給料手当や賞与など

6. 退職所得

退職一時金など

7. 山林所得

保有期間が5年を超える山林（松、杉など）の譲渡による所得

8. 譲渡所得

資産（絵画、骨とう品など）の譲渡による所得

9. 一時所得

クイズの賞金、懸賞の当選金品など

10. 雑所得

その他の所得（国民年金、友人に対する貸付金の利子など）

② 譲渡所得の金額の計算

譲渡所得は、資産の保有期間により、次のように区分して計算する。

保有期間5年以下 ⇒	総合短期
保有期間5年超 ⇒	総合長期

- ◆ 「総合短期」と「総合長期」は、課税標準の計算の取扱いが異なることから合計しない。

③ 雑所得の金額の計算

雑所得は、次のように区分して計算する。

(1) 公的年金等
国民年金、厚生年金など
(2) その他の雑所得
友人に対する貸付金の利子など

- ◆ 「公的年金等」と「その他の雑所得」に区分計算し、それを合計する。



計算パターン

I 各種所得の金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
譲 渡 所 得		
(総合短期)	×××	⇨ 合計しない
(総合長期)	×××	⇨ 合計しない
雑 所 得	×××	1 公的年金等 ××× 2 その他の雑所得 ××× 3 1 + 2 = ××× ⇨ 合計する

 設 例

次の資料に基づき、居住者甲の本年（平成24年）分の各種所得の金額を計算しなさい。

〔資 料〕 本年中の所得の資料

(1) 株式の配当金に係る所得	230,000円
(2) アパートの貸付けに係る所得	3,000,000円
(3) 物品販売業に係る所得	9,000,000円
(4) 給料及び賞与に係る所得	3,600,000円
(5) 退職一時金に係る所得	4,000,000円
(6) 保有期間5年超の山林の譲渡に係る所得	6,000,000円
(7) 保有期間5年以下の絵画の譲渡に係る所得	200,000円
(8) 保有期間5年超の骨とう品の譲渡に係る所得	700,000円
(9) クイズの賞金に係る所得	400,000円
(10) 厚生年金に係る所得	530,000円
(11) 友人に対する貸付金の利子に係る所得	70,000円

I 各種所得の金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
配 当 所 得		
不 動 産 所 得		
事 業 所 得		
給 与 所 得		
退 職 所 得		
山 林 所 得		
譲 渡 所 得 (総合短期) (総合長期)		
一 時 所 得		
雑 所 得		1 公的年金等 2 その他の雑所得 3 1 + 2 =

解 説

譲渡所得は、総合短期と総合長期に区分したまま記入するが、雑所得は、公的年金等とその他の雑所得に区分して計算した後に両者を合計する。

I 各種所得の金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
配 当 所 得	230,000	
不 動 産 所 得	3,000,000	
事 業 所 得	9,000,000	
給 与 所 得	3,600,000	
退 職 所 得	4,000,000	
山 林 所 得	6,000,000	
譲 渡 所 得 (総合短期)	200,000	
(総合長期)	700,000	
一 時 所 得	400,000	
雑 所 得	600,000	1 公的年金等 530,000 2 その他の雑所得 70,000 3 $1 + 2 = 600,000$

トレーニング 問題1

2-3 第2段階 課税標準

■ 課税標準の計算

(1) 総所得金額

山林所得の金額と退職所得の金額以外のものを総合(合算)し、『総所得金額』を計算する。

その際、総合長期譲渡所得の金額と一時所得の金額は、2分の1する。

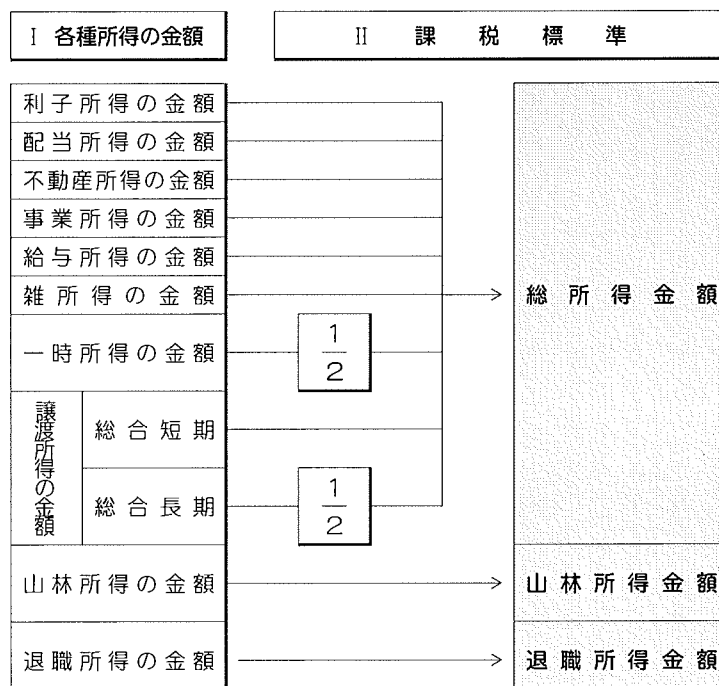
$$\begin{aligned} & \text{利子所得} + \text{配当所得} + \text{不動産所得} + \text{事業所得} + \text{給与所得} + \text{雑所得} \\ & + \text{総合短期譲渡所得} + \left(\text{総合長期譲渡所得} + \text{一時所得} \right) \times \frac{1}{2} \end{aligned}$$

(2) 山林所得金額

山林所得の金額は、『山林所得金額』という課税標準となる。

(3) 退職所得金額

退職所得の金額は、『退職所得金額』という課税標準となる。



設 例

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の課税標準を計算しなさい。

〔資料〕本年分の各種所得の金額

(1) 配当所得の金額	230,000円	(7) 譲渡所得の金額	
(2) 不動産所得の金額	3,000,000円	(総合短期)	200,000円
(3) 事業所得の金額	9,000,000円	(総合長期)	700,000円
(4) 給与所得の金額	3,600,000円	(8) 一時所得の金額	400,000円
(5) 退職所得の金額	4,000,000円	(9) 雑所得の金額	600,000円
(6) 山林所得の金額	6,000,000円		

II 課税標準

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
総所得金額		
山林所得金額		
退職所得金額		
合 計		

解 説

- (1) 総所得金額の計算上、総合長期譲渡所得と一時所得は、2分の1する。
- (2) 山林所得と退職所得は、分離課税（別課税標準）なので、そのまま転記する。
- (3) 所得控除の順序を意識し、**総所得金額、山林所得金額、退職所得金額の順**に解答する。

II 課税標準

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
総所得金額	17,180,000	配当 不動産 事業 給与 総短 230,000 + 3,000,000 + 9,000,000 + 3,600,000 + 200,000
山林所得金額	6,000,000	雑 総長 一時 $\frac{1}{2}$ + 600,000 + (700,000 + 400,000) × $\frac{1}{2}$ = 17,180,000
退職所得金額	4,000,000	
合 計	27,180,000	

トレーニング 問題2・3

2 - 4 第 3 段階 課税所得金額

■ 課税所得金額の計算

(1) 課税標準から所得控除額を控除する。

なお、所得控除額は、まず総所得金額から控除し、控除しきれない部分の金額は、山林所得金額及び退職所得金額から順次控除する。

(2) 課税所得金額の名称は、次のとおりである。

① 総所得金額 ⇒ 課税総所得金額

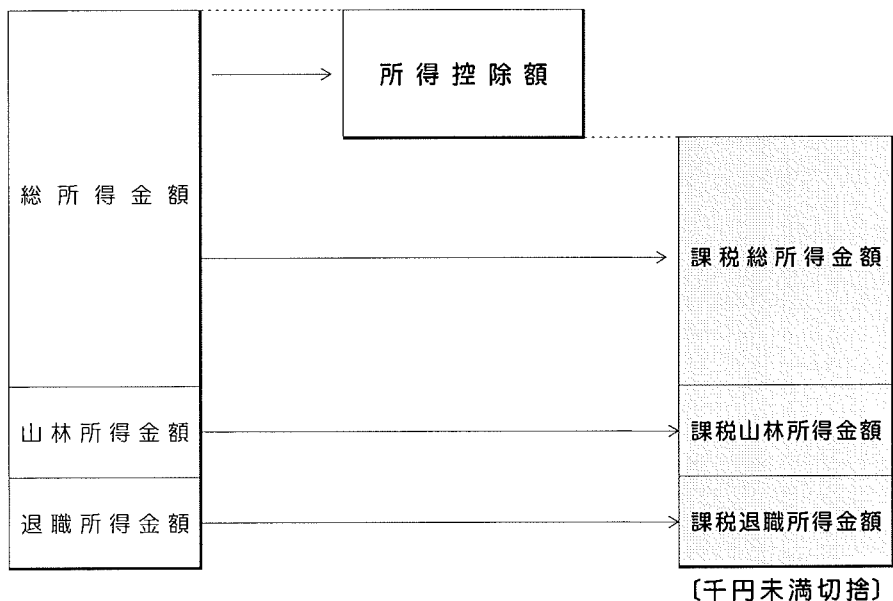
② 山林所得金額 ⇒ 課税山林所得金額

③ 退職所得金額 ⇒ 課税退職所得金額

(3) 各課税所得金額に税率を適用するため、国税通則法により、各課税所得金額の千円未満の端数を切捨てる。

Ⅱ 課 税 標 準

Ⅲ 課 税 所 得 金 額



設 例

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の課税所得金額を計算しなさい。

〔資 料〕

1. 本年分の課税標準

- | | |
|------------|-------------|
| (1) 総所得金額 | 17,180,000円 |
| (2) 山林所得金額 | 6,000,000円 |
| (3) 退職所得金額 | 4,000,000円 |

2. 本年分の所得控除額

2,890,280円

Ⅲ 課税所得金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
課税総所得金額		
課税山林所得金額		
課税退職所得金額		

解 説

- (1) 総所得金額から所得控除額を控除して、課税総所得金額を計算する。
- (2) 山林所得金額と退職所得金額は、その金額が課税所得金額となるので、そのまま転記する。
- (3) 各課税所得金額に千円未満の端数がある場合には切捨てる。
- (4) 計算過程欄に『千円未満切捨』のコメントを記入する。

Ⅲ 課税所得金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
課税総所得金額	14,289,000	$17,180,000 - 2,890,280 = 14,289,000$
課税山林所得金額	6,000,000	
課税退職所得金額	4,000,000	[千円未満切捨]

トレーニング 問題4・5

2-5 第4段階 納付税額

1 納付税額の計算

(1) 算出税額	各課税所得金額に税率を乗じて、それを合計する
(2) 税額控除額 ①	配当控除額など
(3) 源泉徴収税額②	給料などの支払の際、天引きされた源泉徴収税額（前払税額）
(4) 申告納税額	$(1) - (2) - (3) = \times \times \times$ （百円未満切捨）
(5) 予定納税額 ③	7月と11月に納付した予定納税額（前払税額）
(6) 第3期納付税額	$(4) - (5) = \times \times \times$ （確定申告で納付すべき所得税額）

IV	納	付	税	額
----	---	---	---	---

			①	②		③	
課税総所得金額	$\times$ 超過累進税率 $=$	算出税額	税額控除額	源泉徴収税額	$=$	申告納税額	予定納税額
課税山林所得金額	$\times$ 5分5乗方式 $=$	$-$	$-$	$=$	$-$	$=$	第3期納付税額
課税退職所得金額	$\times$ 超過累進税率 $=$						

（百円未満切捨）

〔例 示〕納付税額の計算の流れ

- | | |
|----------|----------|
| ① 算出税額 | 900,000円 |
| ② 配当控除額 | 20,000円 |
| ③ 源泉徴収税額 | 63,620円 |
| ④ 予定納税額 | 200,000円 |

IV 納付税額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
算 出 税 額	900,000	
配 当 控 除 額	△ 20,000	
源泉徴収税額	△ 63,620	
申告納税額	816,300	(百円未満切捨) ⇐ コメントを記入する
予 定 納 税 額	△ 200,000	
第3期納付税額	616,300	

※ 解答に当たって、『△』は示す必要はない。

2 算出税額

(1) 課税総所得金額

$$\text{課税総所得金額} \times \text{超過累進税率} = \text{税額}$$

(2) 課税山林所得金額 ⇒ 5分5乗方式

$$\textcircled{1} \quad \text{課税山林所得金額} \times \frac{1}{5} = [a]$$

$$\textcircled{2} \quad [a] \times \text{超過累進税率} = [b]$$

$$\textcircled{3} \quad [b] \times 5 = \text{税額}$$

(3) 課税退職所得金額

$$\text{課税退職所得金額} \times \text{超過累進税率} = \text{税額}$$

◆ 超過累進税率（速算表）

$$\cdots \cdots \text{【A】} \times \text{税率} - \text{控除額}$$

課税所得金額【A】		税率	控除額
1,950,000円以下		5%	—円
1,950,000円超	3,300,000円以下	10%	97,500円
3,300,000円超	6,950,000円以下	20%	427,500円
6,950,000円超	9,000,000円以下	23%	636,000円
9,000,000円超	18,000,000円以下	33%	1,536,000円
18,000,000円超		40%	2,796,000円

◆ 速算表は、参考資料で与えられる。

③ 課税山林所得金額の税額計算（5分5乗方式）

- ① 課税山林所得金額を5分の1する（÷5でもよい）。
 ◆ 5分の1後に千円未満の端数があっても、切り捨てない。
- ② ①の金額に速算表の税率を乗じ控除額を控除する。
- ③ ②の金額を5倍する。

〔例 示〕

(1) 課税総所得金額 20,000,000円

$$20,000,000円 \times 40\% - 2,796,000円 = 5,204,000円$$

(2) 課税山林所得金額 36,000,000円

$$\textcircled{1} \quad 36,000,000円 \times \frac{1}{5} = 7,200,000円$$

$$\textcircled{2} \quad 7,200,000円 \times 23\% - 636,000円 = 1,020,000円$$

$$\textcircled{3} \quad 1,020,000円 \times 5 = 5,100,000円$$

※ ②と③は、次のように、まとめてもよい。

$$(7,200,000円 \times 23\% - 636,000円) \times 5 = 5,100,000円$$

(3) 課税退職所得金額 1,000,000円

$$1,000,000円 \times 5\% = 50,000円$$

4 税額控除額

税額控除には、**配当控除**などがある。

5 源泉徴収税額

配当金や給料などの支払を受ける場合には、所得税が天引きされる。
天引きされる所得税を**源泉徴収税額**といい、**前払税額の性格**を有する。
したがって、**税込金額**（源泉徴収税額控除前の金額）を基礎に所得を計算し、
算出税額から**源泉徴収税額**を控除（**精算**）する。

〔例 示〕

配当金の手取額 800,000円（源泉徴収税額 200,000円）

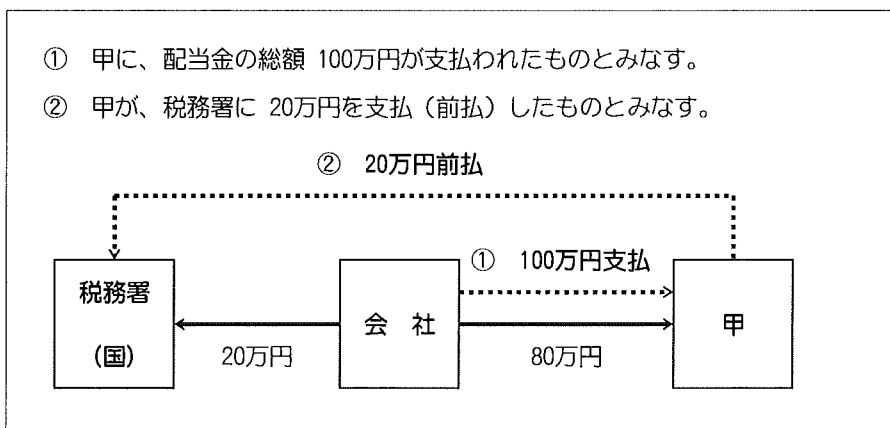
I 各種所得の金額

摘 要	金 額	計 算 過 程	(単位：円)
配 当 所 得	1,000,000	800,000 + 200,000 = 1,000,000 ←	税込金額
		.	
		.	
		.	

IV 納付税額

摘 要	金 額	計 算 過 程	(単位：円)
算 出 税 額	× × ×		
配当控除額	△ × × ×		
源泉徴収税額	△ 200,000	← 控除（精算）	
申告納税額	× × ×	〔百円未満切捨〕	

《図 解》考え方



6 申告納税額

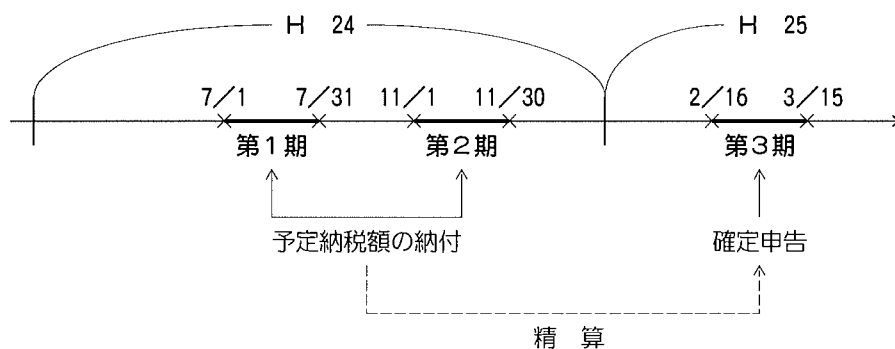
算出税額から税額控除額及び源泉徴収税額を控除して申告納税額を計算する。

※ 黒字で百円未満の端数があるときは、その端数を切捨てる。

7 予定納税額

前年分の実績で、一定の者は、7月（第1期）と11月（第2期）に所得税を前払（予定納税）しなければならない。

この予定納税額は、確定申告の際に控除（精算）する。



 設 例

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の第 3 期納付税額を計算しなさい。

〔資 料〕

- 1. 課税所得金額
 - (1) 課税総所得金額 14,289,000円
 - (2) 課税山林所得金額 6,000,000円
 - (3) 課税退職所得金額 4,000,000円
- 2. 配当控除額 11,500円
- 3. 源泉徴収税額 46,150円
- 4. 予定納税額 520,000円

〔参 考〕

速 算 表

課 税 総 所 得 金 額 等		税 率	控 除 額
1,950,000円以下		5 %	一円
1,950,000円超	3,300,000円以下	10%	97,500円
3,300,000円超	6,950,000円以下	20%	427,500円
6,950,000円超	9,000,000円以下	23%	636,000円
9,000,000円超	18,000,000円以下	33%	1,536,000円
18,000,000円超		40%	2,796,000円

IV 納付税額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
算 出 税 額		
配 当 控 除 額		
源 泉 徴 収 税 額		
申 告 納 税 額		
予 定 納 税 額		
第 3 期納付税額		

解説

IV 納付税額

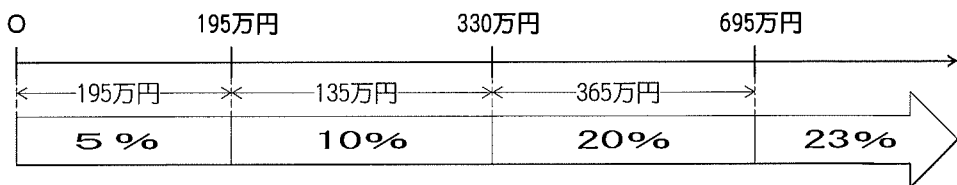
摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
算 出 税 額	3,851,870	(1) 課税総所得金額の税額 $14,289,000 \times 33\% - 1,536,000 = 3,179,370$ (2) 課税山林所得金額の税額 $6,000,000 \times \frac{1}{5} = 1,200,000$ $1,200,000 \times 5\% = 60,000$ $60,000 \times 5 = 300,000$ (3) 課税退職所得金額の税額 $4,000,000 \times 20\% - 427,500 = 372,500$ (4) (1)+(2)+(3)=3,851,870
配当控除額	11,500	
源泉徴収税額	46,150	
申告納税額	3,794,200	(百円未満切捨)
予定納税額	520,000	
第3期納付税額	3,274,200	


トレーニング 問題6～8

参 考 超過累進税率の考え方

法89において、次のように規定されている。

課税総所得金額等の金額	税 率
195万円以下の金額	5 %
195万円を超え 330万円以下の部分の金額	10%
330万円を超え 695万円以下の部分の金額	20%
695万円を超え 900万円以下の部分の金額	23%
900万円を超え 1,800万円以下の部分の金額	33%
1,800万円を超える部分の金額	40%



〔例 示〕

課税総所得金額が 6,000,000円の場合

〔条文上〕

- (1) $1,950,000円 \times 5\% = 97,500円$ (195万円までの部分は5%)
 - (2) $1,350,000円 \times 10\% = 135,000円$ (195万円から330万円までの部分は10%)
 - (3) $2,700,000円 \times 20\% = 540,000円$ (330万円から600万円までの部分は20%)
 - (4) $(1) + (2) + (3) = 772,500円$
- ※ 600万円のうち195万円までは5%、195万円から330万円までの135万円が10%、330万円超部分の270万円が20%の税率が適用される仕組みである。

〔速算表〕

$$6,000,000円 \times 20\% - \underline{427,500円} = 772,500円$$



- (1) $1,950,000円 \times (20\% - 5\%) = 292,500円$
- (2) $1,350,000円 \times (20\% - 10\%) = 135,000円$
- (3) $(1) + (2) = 427,500円$

トレーニング

< 今回の学習内容 >

第1回講義 使用ページ

p. 1 ~ 5

問題編

問題 1 各種所得の金額（シートあり）

基礎

— 4 分 —

次の資料に基づき、居住者甲の本年分（平成24年分）の各種所得の金額を計算しなさい。

〔資 料〕

(1) 株式の剰余金の配当に係る所得	150,000円
(2) アパートの賃貸に係る所得	2,670,000円
(3) 製造業に係る所得	2,700,000円
(4) 給料収入に係る所得	2,075,000円
(5) 退職一時金に係る所得	1,800,000円
(6) 平成5年に取得した山林の譲渡に係る所得	4,300,000円
(7) 平成20年に取得した絵画の譲渡に係る所得	500,000円
(8) 平成11年に取得した骨とう品の譲渡に係る所得	2,580,000円
(9) 懸賞の賞金に係る所得	300,000円
(10) 厚生年金に係る所得	1,000,000円
(11) 友人に対する貸付金の利子に係る所得	88,000円

問題 2 課税標準①（シートあり）

基礎

— 3 分 —

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の課税標準を計算しなさい。

〔資 料〕 本年分の各種所得の金額

配当所得の金額	150,000円	譲渡所得の金額（総合短期）	500,000円
不動産所得の金額	2,670,000円	（総合長期）	2,580,000円
事業所得の金額	2,700,000円	一時所得の金額	300,000円
給与所得の金額	2,075,000円	雑所得の金額	1,088,000円
退職所得の金額	1,800,000円		
山林所得の金額	4,300,000円		

問題3 課税標準②（シートあり）**基礎**

— ⌚ 5 分 —

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の課税標準を計算しなさい。

〔資 料〕

(1) A株式会社から受けた給料及び賞与に係る所得	3,290,000円
(2) 貸家の貸付けに係る所得	1,638,000円
(3) 製造業に係る所得	15,068,340円
(4) 昭和58年に取得した山林の譲渡に係る所得	16,800,000円
(5) B株式会社から受けた剰余金の配当に係る所得	138,600円
(6) 平成13年に取得した宝石の譲渡に係る所得	238,000円
(7) 平成21年に取得した絵画の譲渡に係る所得	86,000円
(8) 友人に対する貸付金の利子に係る所得	53,000円
(9) 競馬の馬券の払戻金に係る所得	390,000円

問題4 課税所得金額①（シートあり）**基礎**

— ⌚ 2 分 —

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の課税所得金額を計算しなさい。

〔資 料〕

1. 甲の本年分の課税標準は次のとおりである。

(1) 総所得金額	10,623,000円
(2) 山林所得金額	4,300,000円
(3) 退職所得金額	1,800,000円

2. 甲の本年分の所得控除額は 2,444,500円である。

問題5 課税所得金額②（シートあり）

基礎

— 7分 —

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の課税所得金額を計算しなさい。

〔資料〕

1. 甲の本年分の所得は次のとおりである。

(1) 卸売業に係る所得	9,360,520円
(2) A株式会社からの給料、賞与に係る所得	4,620,720円
(3) A株式会社からの退職金に係る所得	6,210,000円
(4) 平成10年に取得した書画の譲渡に係る所得	280,000円
(5) 懸賞クイズの当選金に係る所得	120,000円
(6) 退職年金に係る所得	162,000円
(7) 友人に対する貸付金の利子に係る所得	38,621円

2. 甲の本年分の所得控除額は 2,480,000円である。

問題6 納付税額①（シートあり）

基礎

— 10分 —

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の第3期納付税額を計算しなさい。

〔資料〕

1. 甲の本年分の課税所得金額は次のとおりである。

(1) 課税総所得金額	8,178,000円
(2) 課税山林所得金額	4,300,000円
(3) 課税退職所得金額	1,800,000円

2. 甲の本年分の配当控除額は 15,000円である。

3. 甲の本年分の源泉徴収税額は 1,045,620円である。

4. 甲が本年中に納付した予定納税額は 120,000円である。

《参考資料》

所得税の速算表

課税総所得金額等	税率	控除額
1,950,000円以下	5 %	— 円
1,950,000円超 ～ 3,300,000円以下	10 %	97,500 円
3,300,000円超 ～ 6,950,000円以下	20 %	427,500 円
6,950,000円超 ～ 9,000,000円以下	23 %	636,000 円
9,000,000円超 ～ 18,000,000円以下	33 %	1,536,000 円
18,000,000円超	40 %	2,796,000 円

問題 7

納付税額②（シートあり）

基礎

— 15分 —

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の第3期納付税額を、計算過程を明示して計算しなさい。

〔資料〕

1. 甲の本年分の所得は次のとおりである。

(1) A株からの剰余金の配当に係る所得	120,000円
(2) 物品販売業に係る所得	2,000,000円
(3) 給与収入に係る所得	1,935,000円
(4) 退職手当に係る所得	4,500,000円
(5) 平成7年に取得した山林の譲渡に係る所得	21,500,000円
(6) 平成21年に取得した書画の譲渡に係る所得	520,000円
(7) クイズの賞金に係る所得	320,000円
2. 甲の本年分の所得控除額は 2,163,500円である。
3. 甲の本年分の配当控除額は 12,000円である。
4. 甲の本年分の源泉徴収税額は 1,946,250円である。
5. 甲が第1期及び第2期に納付した予定納税額は 800,000円である。

《参考資料》

所得税の速算表

課 税 総 所 得 金 額 等	税 率	控 除 額
1,950,000円以下	5 %	— 円
1,950,000円超 ～ 3,300,000円以下	10 %	97,500 円
3,300,000円超 ～ 6,950,000円以下	20 %	427,500 円
6,950,000円超 ～ 9,000,000円以下	23 %	636,000 円
9,000,000円超 ～ 18,000,000円以下	33 %	1,536,000 円
18,000,000円超	40 %	2,796,000 円

問題8 まとめ問題（シートあり）

基礎

— 20分 —

次の資料に基づき、居住者甲の本年分の第3期納付税額を計算しなさい。

〔資 料〕

1. 甲の本年分の所得は次のとおりである。

(1) アパートの貸付けに係る所得	9,320,451円
(2) 剰余金の配当に係る所得	260,040円
(3) 給料及び賞与に係る所得	3,650,467円
(4) 退職一時金に係る所得	6,280,000円
(5) 厚生年金に係る所得	160,800円
(6) クイズの賞金に係る所得	260,000円
(7) 昭和52年に取得した山林の譲渡に係る所得	26,280,600円
(8) 友人に対する貸付金の利子に係る所得	268,356円
(9) 昭和62年に取得した骨とう品の譲渡に係る所得	1,680,000円
(10) 平成21年に取得した絵画の譲渡に係る所得	120,000円
2. 甲の本年分の所得控除額は 2,380,000円である。
3. 甲の本年分の配当控除額は 13,002円である。
4. 甲の本年分の源泉徴収税額は 1,650,000円である。
5. 甲が本年中に納付した予定納税額は 160,000円である。

《参考資料》

所得税の速算表

課 税 総 所 得 金 額 等	税 率	控 除 額
1,950,000円以下	5 %	— 円
1,950,000円超 ～ 3,300,000円以下	10 %	97,500 円
3,300,000円超 ～ 6,950,000円以下	20 %	427,500 円
6,950,000円超 ～ 9,000,000円以下	23 %	636,000 円
9,000,000円超 ～ 18,000,000円以下	33 %	1,536,000 円
18,000,000円超	40 %	2,796,000 円

解答編

問題 1

I 各種所得の金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位: 円)
配 当 所 得	150,000	
不 動 産 所 得	2,670,000	
事 業 所 得	2,700,000	
給 与 所 得	2,075,000	
退 職 所 得	1,800,000	
山 林 所 得	4,300,000	
譲 渡 所 得		
(総 合 短 期)	500,000	
(総 合 長 期)	2,580,000	
一 時 所 得	300,000	
雑 所 得	1,088,000	1. 公的年金等 1,000,000 2. その他の雑所得 88,000 3. $1 + 2 = 1,088,000$

【解答への道】

各種所得の金額の計算上の注意点

- (1) 譲渡所得は、譲渡した資産の保有期間に応じ総合短期又は総合長期に区分し、それぞれ別個に認識する。

絵画の譲渡は、保有期間が5年以下であるため総合短期に該当し、骨とう品の譲渡は、保有期間が5年超であるため総合長期に該当する。

- (2) 雑所得は、公的年金等とその他の雑所得に区分し、それぞれの合計額を雑所得の金額として認識する。

問題2

II 課税標準

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
総 所 得 金 額	10,623,000	$150,000 + 2,670,000 + 2,700,000 + 2,075,000 + 500,000$ $+ (2,580,000 + 300,000) \times \frac{1}{2} + 1,088,000 = 10,623,000$
山 林 所 得 金 額	4,300,000	
退 職 所 得 金 額	1,800,000	
合 計	16,723,000	

【解答への道】

各課税標準の名称及び計算

総 所 得 金 額	山林所得及び退職所得以外の各種所得の金額を総合(合算)する。 なお、総合長期譲渡所得及び一時所得は2分の1後の金額を総合(合算)する。
山林所得金額	山林所得の金額を転記する。
退職所得金額	退職所得の金額を転記する。

問題3

I 各種所得の金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
配 当 所 得	138,600	
不 動 産 所 得	1,638,000	
事 業 所 得	15,068,340	
給 与 所 得	3,290,000	
山 林 所 得	16,800,000	
譲 渡 所 得		
(総 合 短 期)	86,000	
(総 合 長 期)	238,000	
一 時 所 得	390,000	
雑 所 得	53,000	

II 課税標準

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
総 所 得 金 額	20,587,940	$138,600 + 1,638,000 + 15,068,340 + 3,290,000 + 86,000$ $+ (238,000 + 390,000) \times \frac{1}{2} + 53,000 = 20,587,940$
山林所得金額	16,800,000	
合 計	37,387,940	

問題4

Ⅲ 課税所得金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
課税総所得金額	8,178,000	10,623,000－2,444,500＝8,178,000 〔千円未満切捨〕
課税山林所得金額	4,300,000	
課税退職所得金額	1,800,000	

【解答への道】

各課税所得金額の名称及び計算

課税総所得金額	総所得金額から所得控除額の合計額を控除する。 なお、千円未満の端数がある場合には切捨てる。
課税山林所得金額	山林所得金額を転記する。 なお、千円未満の端数がある場合には切捨てる。
課税退職所得金額	退職所得金額を転記する。 なお、千円未満の端数がある場合には切捨てる。

問題5

Ⅰ 各種所得の金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
事 業 所 得	9,360,520	
給 与 所 得	4,620,720	
退 職 所 得	6,210,000	
譲 渡 所 得 (総 合 長 期)	280,000	
一 時 所 得	120,000	
雑 所 得	200,621	1. 公的年金等 162,000 2. その他の雑所得 38,621 3. 1 + 2 = 200,621

Ⅱ 課税標準

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
総 所 得 金 額	14,381,861	$9,360,520 + 4,620,720 + (280,000 + 120,000) \times \frac{1}{2}$ $+ 200,621 = 14,381,861$
退 職 所 得 金 額	6,210,000	
合 計	20,591,861	

Ⅲ 課税所得金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
課 税 総 所 得 金 額	11,901,000	$14,381,861 - 2,480,000 = 11,901,000$ [千円未満切捨]
課 税 退 職 所 得 金 額	6,210,000	

【解答への道】

退職年金は、雑所得の公的年金等として課税される。

問題6

IV 納付税額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位: 円)
算 出 税 額	1,549,940	(1) 課税総所得金額に対する所得税額 $8,178,000 \times 23\% - 636,000 = 1,244,940$ (2) 課税山林所得金額に対する所得税額 $4,300,000 \times \frac{1}{5} = 860,000$ $860,000 \times 5\% = 43,000$ $43,000 \times 5 = 215,000$ (3) 課税退職所得金額に対する所得税額 $1,800,000 \times 5\% = 90,000$ (4) (1)+(2)+(3) = 1,549,940
配 当 控 除 額	15,000	
源 泉 徴 収 税 額	1,045,620	
申 告 納 税 額	489,300	[百円未満切捨]
予 定 納 税 額	120,000	
第 3 期 納 付 税 額	369,300	

【解答への道】

納付税額の計算の流れ

算 出 税 額	(1) 課税総所得金額に対する所得税額 $\text{課税総所得金額} \times \text{税率} - \text{控除額} = \times \times$ (2) 課税山林所得金額に対する所得税額 $\text{課税山林所得金額} \times \frac{1}{5} = [A]$ $[A] \times \text{税率} - \text{控除額} = [B]$ $[B] \times 5 = \times \times$ (3) 課税退職所得金額に対する所得税額 $\text{課税退職所得金額} \times \text{税率} - \text{控除額} = \times \times$ (4) (1)+(2)+(3) = 算出税額
税 額 控 除 額	配当控除額などの金額を記載する。
源 泉 徴 収 税 額	配当金などの支払の際天引きされた金額を転記する。
申 告 納 税 額	$\text{算出税額} - \text{税額控除額} - \text{源泉徴収税額} = \text{申告納税額}$ ※ 申告納税額に百円未満の端数がある場合には、その端数を切捨てる。
予 定 納 税 額	第1期及び第2期に納付した予定納税額を転記する。
第 3 期 納 付 税 額	$\text{申告納税額} - \text{予定納税額} = \text{第3期納付税額}$

問題 7

Ⅰ 各種所得の金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
配 当 所 得	120,000	
事 業 所 得	2,000,000	
給 与 所 得	1,935,000	
退 職 所 得	4,500,000	
山 林 所 得	21,500,000	
譲 渡 所 得 (総 合 短 期)	520,000	
一 時 所 得	320,000	

Ⅱ 課税標準

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
総 所 得 金 額	4,735,000	$120,000 + 2,000,000 + 1,935,000 + 520,000 + 320,000 \times \frac{1}{2}$ $= 4,735,000$
山 林 所 得 金 額	21,500,000	
退 職 所 得 金 額	4,500,000	
合 計	30,735,000	

Ⅲ 課税所得金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
課税総所得金額	2,571,000	$4,735,000 - 2,163,500 = 2,571,000$ [千円未満切捨]
課税山林所得金額	21,500,000	
課税退職所得金額	4,500,000	

IV 納付税額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位: 円)
算 出 税 額	2,794,600	(1) 課税総所得金額に対する所得税額 $2,571,000 \times 10\% - 97,500 = 159,600$ (2) 課税山林所得金額に対する所得税額 $21,500,000 \times \frac{1}{5} = 4,300,000$ $4,300,000 \times 20\% - 427,500 = 432,500$ $432,500 \times 5 = 2,162,500$ (3) 課税退職所得金額に対する所得税額 $4,500,000 \times 20\% - 427,500 = 472,500$ (4) $(1) + (2) + (3) = 2,794,600$
配 当 控 除 額	12,000	
源 泉 徴 収 税 額	1,946,250	
申 告 納 税 額	836,300	[百円未満切捨]
予 定 納 税 額	800,000	
第 3 期 納 付 税 額	36,300	

問題8

Ⅰ 各種所得の金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
配 当 所 得	260,040	
不 動 産 所 得	9,320,451	
給 与 所 得	3,650,467	
退 職 所 得	6,280,000	
山 林 所 得	26,280,600	
譲 渡 所 得 (総 合 短 期)	120,000	
(総 合 長 期)	1,680,000	
一 時 所 得	260,000	
雑 所 得	429,156	1. 公的年金等 160,800 2. その他の雑所得 268,356 3. $1 + 2 = 429,156$

Ⅱ 課税標準

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
総 所 得 金 額	14,750,114	$260,040 + 9,320,451 + 3,650,467 + 120,000 + (1,680,000 + 260,000) \times \frac{1}{2} + 429,156 = 14,750,114$
山 林 所 得 金 額	26,280,600	
退 職 所 得 金 額	6,280,000	
合 計	47,310,714	

Ⅲ 課税所得金額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位：円)
課 税 総 所 得 金 額	12,370,000	$14,750,114 - 2,380,000 = 12,370,000$ [千円未満切捨]
課 税 山 林 所 得 金 額	26,280,000	
課 税 退 職 所 得 金 額	6,280,000	

IV 納付税額

摘 要	金 額	計 算 過 程 (単位 : 円)
算 出 税 額	6,493,100	(1) 課税総所得金額に対する所得税額 $12,370,000 \times 33\% - 1,536,000 = 2,546,100$ (2) 課税山林所得金額に対する所得税額 $26,280,000 \times \frac{1}{5} = 5,256,000$ $5,256,000 \times 20\% - 427,500 = 623,700$ $623,700 \times 5 = 3,118,500$ (3) 課税退職所得金額に対する所得税額 $6,280,000 \times 20\% - 427,500 = 828,500$ (4) $(1) + (2) + (3) = 6,493,100$
配 当 控 除 額	13,002	
源 泉 徴 収 税 額	1,650,000	
申 告 納 税 額	4,830,000	[百円未満切捨]
予 定 納 税 額	160,000	
第 3 期 納 付 税 額	4,670,000	